



【2017年ビジネス書ランキング】編集部おすすめの1冊 年末特別篇



2017年も残りあとわずか。そこで、今回は「編集部おすすめの1冊」年末特別篇として、今年売れたビジネス書をランキング形式で振り返る。

<2017年ビジネス書ランキング>

タイトル／著者／出版社第1位多動力 全産業の“タテの壁”が溶けたこの時代の必須スキル (NewsPicksBook) 堀江貴文／幻冬舎第2位会話もメールも英語は3語で伝わります Simple English for Everyone 中山裕木子／ダイヤモンド社

第3位嫌われる勇気

(自己啓発の源流「アドラー」の教え) 岸見一郎／ダイヤモンド社第4位はじめての人のための3000円投資生活 横山光昭／アスコム第5位やり抜く力

人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につけるアンジェラ・ダックワース／ダイヤモンド社第6位LIFE SHIFT

100年時代の人生戦略 リンダ・グラットン／東洋経済新報社第7位思考の整理学

(ちくま文庫) 外山滋比古／筑摩書房第8位あの会社はこうして潰れた(日経プレミアシリーズ) 藤森徹／日本経済新聞出版社第9位弘兼流60歳からの手ぶら人生 弘兼憲史／海竜社第10位まんがでわかる伝え方が9割佐々木圭一／ダイヤモンド社

honto調べ (集計期間: 2017年1月1日～2017年11月30日)

2017年ビジネス書ランキングのトップに輝いたのは、ホリエモンの「多動力

全産業の“タテの壁”が溶けたこの時代の必須スキル」。5月の発売以来、常に月間ランキングでもトップ10入りを維持していただけに、納得の結果となった。全ての産業の垣根がなくなり、水平分業へと移行していく時代、複数の異なる仕事を同時にこなす「多動力」が必要とされるとホリエモンは主張する。

同様に、これから働き方、ひいては生き方まで考えさせられるのが、第6位となった「LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略」だ。目前に迫る寿命100年時代、機械化やAIの技術進歩による雇用環境の変化など、大きな変革の波が押し寄せる中、これまでの働き方や生き方では通用しないと指摘する。そのうえで本書は、そんな激動の時代をどう生き抜いていけばいいのか、ヒントを提示してくれる。

また、第5位「やり抜く力

人生のあらゆる成功を決める『究極の能力』を身につける」も、新たな価値観を世に送り出した1冊ではないだろうか。IQや才能とは別物で、成功するためには「グリット」＝「やり抜く力」が大切だと説く。

2016年9月に「働き方改革実現会議」が設置され、政府も本腰を入れて乗り出した「働き方改革」。そうした動きと連動するかのように、2017年は世の中の意識が多様な働き方や生き方へと向かっていった1年なのかもしれない。&

もちろん、定番となったベストセラーも健在だ。第3位の「嫌われる勇気（自己啓発の源流「アドラー」の教え）」や第7位の「思考の整理学」は、世代を超えてこれからも読み継がれていくだろう。

まとめ：M&A Online編集